

○計画期間:令和2年4月～令和7年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点(令和6年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、令和2年4月以降、第3期中心市街地活性化基本計画に基づき、計画に位置づけた51事業（計画当初50事業、計画変更で1事業追加）を推進している。

認定計画における令和5年度終了時点の概況については、平日昼間の歩行者通行量は11,086人となり、目標値（令和6年）14,800人及び基準値（平成30年）13,756人を下回ったものの、前年比では682人の増加となった。

この要因としては新型コロナウイルス感染症の5類への引き下げを契機に、市民の外出、市街在住者の仕事・旅行による来街が増え、歩行者通行量が徐々に回復してきたことが考えられる。休日の歩行者通行量についても、感染症の収まりを背景に帯広まちなか歩行者天国等のイベントによる集客効果が高まり、前年度比では2,402人の大幅な増加であった。

まちなかへ足を運ぶ人の数は少しずつ回復してきており、前年度まで中止ないし規模縮小を余儀なくされていた計画事業は、従来どおりに近いかたちで実施できたものも多くあり、飲食業、宿泊業などは様々な場面でコロナ禍前の風景が戻るなど、賑わいを取り戻しつつあることから、今後の更なる賑わい創出が期待できるものであった。

まちなか居住者数は、2,834人（令和5年9月末）で前年比40人の増加となり、目標値（令和6年9月末）2,820人を計画期間内で初めて上回った。今回の増加の主な要因としては、令和4年度に帯広駅周辺のホテルが業態転換したサービス付き高齢者向け住宅（以下「サ高住」）への入居が進んだことが挙げられる。

また、中心市街地における地価については、全ての評価地点で維持または上昇していることから、商業地、住宅地としての需要は依然高いものと考えられる。

令和2年度より中心市街地活性化協議会与連携し、中心市街地における「意欲的なプレーヤー」を掘り起こすため創設した元気な中心市街地づくり促進事業では、中心市街地にカフェと美容室を兼ね合わせた施設がオープンし、人の流れを生み出す拠点としての役割が期待されるほか、本補助事業の実施者同士による連携も生まれ、高校生等の若者を交え今後のまちなかの活性化を考える意見交換会を企画・実施するといった自発的な新しい動きが生まれており、今後も本事業による相乗効果が生まれることが期待される。

近年、全国的な傾向である消費行動の多様化による影響は、本市においても令和5年1月末に閉店した藤丸百貨店に続き、令和6年3月末に長崎屋帯広店の閉館というかたちであらわれている。しかしながら、前述の2商業施設はいずれも新たな土地・建物の所有者による利活用が検討されているほか、中心市街地のエリア内でビジネスホテルや理美容専門学校等の建設といった新しい動きも出てきており、中心市街地における都市機能の再生が図られているものとも考えられる。

今後も、更なる中心市街地の活性化に向けて、中心市街地活性化協議会や各関連団体との連携を図りながら、計画推進に向け取り組んでまいりたい。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度9月末日)

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	2,558人	2,625人	2,805人	2,794人	2,834人	
人口増減数	—	67人	180人	△11	40人	
自然増減数	—	△25人	△15人	△41人	△15人	
社会増減数	—	92人	195人	30人	55人	
転入者数	—	259人	342人	393人	531人	

(2) 地価

(単位：円/㎡)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
中心市街地 商業地域平均	67,933	67,766	68,366	69,833	73,000	
帯広5-1(公) (西2南9)	104,000	103,000	101,000	101,000	101,000	
帯広5-1(基) (西1南10)	104,000	104,000	103,000	103,000	105,000	
帯広5-2(公) (西3南7)	52,000	52,000	52,500	52,500	57,500	
帯広5-4(公) (西5南5)	39,600	39,600	41,700	45,000	49,500	
帯広5-7(公) (大通南10)	55,400	55,400	56,000	60,000	65,000	
帯広5-8(公) (西5南12)	52,600	52,600	56,000	57,500	60,000	

2. 令和5年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

(状況把握)

令和5年は、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げにより、市民生活や経済活動が日常を取り戻しつつあるなか、中心市街地での商店街等によるイベントが従前の内容で復活開催されたり、ランチを提供する飲食店が再開業したりする動きが出てきた。また、相次ぐ大型店の閉店に危機感を抱き、帯広商工会議所や飲食店の若手経営者等が新規のイベントを開催し、市民がまちなかに足を運ぶ機会を増やそうという取組みが見られた。

こうしたことが契機になり、地域住民や観光客、ビジネス客などの中には、特定の買い物や用務を済ませた後、まちなかに「何か」を求めて滞留する動きが出てきている。また、夫婦連れや若いカップルなどが歩く姿が増え、全体として歩行者の若年化が見られる。

(目標の達成状況)

平日の歩行者通行量は新型コロナウイルス感染症まん延以前の状況に回復しつつあるものの、調査地点によるばらつきが目立ち、藤丸百貨店の閉店が大きく影響がしている状況が見られた。

まちなか居住者数は、令和2年に完成した分譲マンションへの居住のほか、JR帯広駅前に新たにサ高住が供用されたことが効果となり、目標を達成することができた。

(目標達成のための取組みの効果や残期間での対応方向)

計画期間が残り1年となったなかで、歩行者の滞留の場を提供してきた大型店の閉店は大変残念であるが、それぞれの所有者等で新たな動きが検討・準備されており、その方向がいち早く示されることを期待する。また、居住者増に寄与する主要事業が新型コロナウイルス感染症や原材料費の高騰等により着手に至らなかったことも残念ではあるが、JR帯広駅前のサ高住への入居促進への支援などを検討し、残された期間での目標達成に向け積極的に取り組んでいくことが肝要である。

令和2年度に創設された市の「元気な中心市街地づくり促進事業」による事業者間や、既存店間の連携の芽が出てきており、相乗効果が期待されるほか、令和6年には中心部に理美容専門学校の開校やホテルの開業が準備されており、今後、より多くの若者や観光客がまちなかを行き来することが期待される。

さらに、新居住者やこれまでの居住者、そして来街者のための基本的なサービス事業として、食料品や日用品の購入機会を中心市街地で提供していく取組みや、まちなか活性化に資する新たなイベントや事業者間連携の取組みなどの動きを情報発信していくことが強く求められる。

(次期計画も視野に入れた中活協としての今後の取組み方向)

今後、本市においても人口減少や高齢化がますます進み、家族における送り迎えの担い手が不足していくことが懸念され、まちなかを訪れる人のみならず、まちなかで暮らす人の交通手段も含めた訪れやすく、暮らしやすい都市の在り方、さらにはその都市増を踏まえた中心市街地の在り方を検討していく必要がある。藤丸百貨店に加え、長崎屋帯広店が閉店したことは、食料品や日用品、さらにはお歳暮・お中元などの贈答品の買い物の場、ウインドーショッピングや遊びの場等、滞留の場が失われ、これに代わる場や機能の在り方も検討していく必要がある。

中心市街地活性化協議会の構成員には、まちなかでのプレイヤーや公共交通、宿泊などの分野の中核者がおり、検討課題を踏まえ、今後においても積極的に議論をしつつ、自ら取り組んでいくほか、関係者への提言等、目標達成に向け、主体的に参画してまいりたい。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
平日昼間を中心とした来街者を増やす	歩行者通行量 (平日昼間 9～17時)	13,756人 (H30)	14,800人 (R6)	11,086人 (R5)	C	①	①
	【参考指標】 中心市街地の 宿泊客延べ数	96.6万人泊 (H30)	100.5万人泊 (R6)	90.6万人泊 (R5)	C	①	①
	【参考指標】 歩行者通行量 (平日+休日)	55,773人 (H30)	58,700人 (R6)	36,509人 (R5)	C	①	①
まちなか居住者を増やす	まちなか 居住者数	2,666人 (H30.9末)	2,820人 (R6.9末)	2,834人 (R5.9末)	A	①	①

< 基準値からの改善状況 >

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者通行量（平日昼間9～17時）」については、基準値から約19.4%の減となり、目標値を下回っている状況。要因としては令和2年初めから新型コロナウイルス感染症の拡大による外出自粛の影響を受け大幅に減少した人流が、徐々に戻ってきているものの回復しきっていないこと等が考えられる。調査地点別では、平成30年の基準値と比較して、市街地再開発事業が完了した経済センタービル東側が大きく増加している一方、旧藤丸百貨店南側は店舗の閉店の影響から歩行者通行量は減少している。また、予定されていた「西3・10東地区優良建築物等整備事業」が新型コロナウイルス感染症の影響により事業着手に至っておらず、目標値の積算に含まれていた、宿泊・商業・居住施設の整備が未完了であることも、目標値に至っていない要因である。

今後も「起業家がつながる拠点運営事業」によるビジネス利用客の取り込み、「元気な中心市街地づくり促進事業」による中心市街地における魅力的で革新的な事業の展開を増やしていくこと等により、にぎわいの創出に伴う歩行者通行量の増加を図るほか、中心市街地における居住者数は順調に増加しており、そこからの人の流れが生まれていることや、良好な自然環境等を目的とした国内の観光客やインバウンドの更なる増加が期待できることから、こうした効果も含め目標値の達成は見込まれる。

「まちなか居住者数」については、基準値から約6.3%の増となり、目標値を14人上回っている状況。主要事業である「西3・10東地区優良建築物等整備事業」が新型コロナウイルス感染症等の影響で事業の着手に至っていないものの、「西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業」が

計画どおり完了し、本事業による19階建て分譲マンションは全戸完売していることから、入居が進むことによる効果も発現してきているほか、JR 帯広駅前にできたサ高住への入居が進んだことが増加の要因と考えられる。

【参考指標】

「中心市街地の宿泊客延べ数」については、目標値を下回る結果となったものの、商店街のおまつりなどのイベントが従来どおりに近いかたちで実施されたほか、4年に1度の国際農業機械展開催や、夏季の帯広名古屋季節便利用が好調であったことから、前年度比微増の宿泊者数であった。今後、新型コロナウイルス感染症からの更なる回復や、インバウンドの増加などが期待されることから目標達成が見込まれる。

【参考指標】

「歩行者通行量（平日+休日）」については、基準値から約34.5%の減となり、目標値を下回っている状況。「歩行者通行量（平日昼間9～17時）」と同様、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した人流が、徐々に戻ってきているものの回復しきっていないと考えられる。しかしながら、感染症の収まりを背景に帯広まちなか歩行者天国等のイベントによる集客効果が高まっているほか、中止ないし規模縮小を余儀なくされていた計画事業について、従来どおりに近いかたちで実施できた事業も多くあることから、次年度以降の更なる賑わい創出が期待できるものであった。

令和6年度は、中心市街地の広場や道路空間での民間事業者によるイベントが企画されていること等による休日の賑わい創出や、全国的に人の移動が活発になっている。国内のビジネス、観光を目的とした来街者や、良好な自然環境等を目的としたインバウンドは更なる増加が期待されることから、目標達成が見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

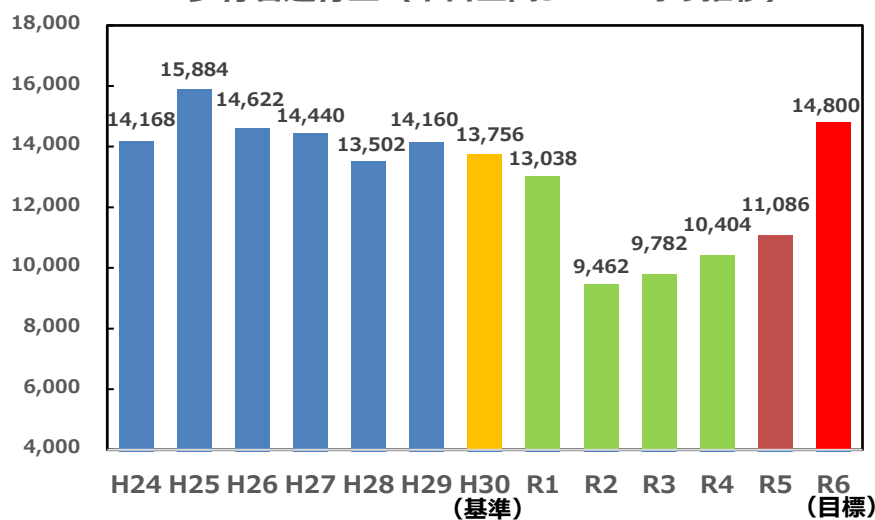
令和4年度フォローアップから、見通しの変化はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「歩行者通行量（平日昼間9～17時）」 ※目標設定の考え方は基本計画 P63、P65～70 参照

●調査結果と分析

歩行者通行量（平日昼間9～17時の推移）



年	(人)
H30	13,756 (基準年値)
R1	13,038
R2	9,462
R3	9,782
R4	10,404
R5	11,086
R6	14,800 (目標値)

※調査方法：午前9時～午後5時までの歩行者通行量を測定

※調査月：各年6月最終週又は7月の第1週金曜日（休日に前年と同じイベントが行われる週に合わせて決定）

※調査主体：帯広商工会議所

※調査対象：中心市街地区域内計18か所における「中学生以上の歩行者」



(単位：人)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
①旧ヨーカドー東側	460	240	284	470	758	
②セントラル十勝ビル西側	460	324	528	464	608	
③旧藤丸百貨店南側	1,164	1026	910	892	212	

④マルキチパーキング北側	284	320	350	306	268	
⑤ポテチーノ南側	414	264	328	326	236	
⑥旧auショップ北側	308	210	250	214	332	
⑦北洋ビル跡東側	742	752	812	532	324	
⑧共同ビル西側	700	480	382	598	686	
⑨アサノカメラ前	282	266	192	216	168	
⑩旧ベルナ前	238	278	204	238	250	
⑪だるま川上薬局東側	446	346	312	352	458	
⑫北の屋台東側	264	246	222	228	238	
⑬立花ビル前	494	416	414	248	196	
⑭多目的広場西側	562	330	316	448	408	
⑮多目的広場東側	648	402	456	442	414	
⑯ふじもり前	970	710	716	1,070	1,034	
⑰帯広駅東コンコース入口	3,254	2,018	2,366	2,186	3,164	
⑱ホテル日航ノースランド帯広西側	1,348	834	740	1,174	1,332	
合計	13,038	9,462	9,782	10,404	11,086	

〈分析内容〉

令和5年度については基準値を下回ったものの、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響からの回復傾向が見られ、前年度比では682人の増となった。店舗の閉店の影響から旧藤丸百貨店南側の歩行者通行量は減少している一方で、市街地再開発事業が完了した経済センタービル東側（調査地点①②）やJR帯広駅周辺等は前年度から大きく増加している。JR帯広駅周辺の増加要因としては、出張等の市外からの人流が回復してきていることが考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果①. 西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業（アルファコート帯広西3・9地区開発株式会社）

事業実施期間	平成29年度～令和3年度【済】
事業概要	大型商業施設が郊外に移転して以降空きビル状態が続き、中心市街地衰退の大きな要因の一つであった西3・9周辺地区を再整備し、事務所棟、19階建て分譲マンション棟、店舗棟などの建設により、都市機能の更新を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成29年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】760人 【最新値】666人</p> <p>本事業による居住施設の整備により歩行者通行量は264人、商業施設整備により496人、計760人の増加を見込んでいる。本事業は当初の計画どおり進捗し、令和2年4月に事務所棟・駐車場棟が完成、令和2年10月に分譲マンション棟が完成した。令和4年2月までに商業棟や自走式駐車場棟などの全ての工事が完了したことから、商業施設整備による歩行者量の増加として、計画策定時の試算通り、$2,080 \text{人} \times 15.1\% \times 2 \times 79\% = 496 \text{人}$を見込んでいる。また令和6年3月末における分譲マンションの成約割合は100%（令和6年3月末入居実績181人）であり、歩行者通行量としては$181 \text{人} \times 59.4\% \times 2 \times 79\% = 170 \text{人}$の増加と推定される。</p>
事業の今後について	商業棟については令和5年度中に全てのスペースが契約済みとなったが、未入居のテナントが一部ある状況。今後新たなテナントが開業することにより、さらなる集客、にぎわいの創出が期待できる。

②. 西3・10東地区優良建築物等整備事業（有限会社ホテル十勝屋）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	JR帯広駅からほど近く、オフィスビル・ホテル・映画館などの娯楽施設が集中する地区で宿泊施設・商業施設・居住施設等からなる複合施設を整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】392人 【最新値】0人</p> <p>本事業による歩行者通行量は、居住施設の整備により20人、商業施設整備により155人、ホテルの整備により217人、計392人の増加を見込んでいた。事業実施期間は令和3年度～令和5年度の予定であったが、新型コロナウイルス感染症や原材料費の高騰等の影響により、事業着手に至っていないもの。</p>

事業の今後について	計画期間内での事業着手には至らない見通しであるが、当該地の利活用については事業者に対して確認を継続していくもの。
③. 移住促進事業（UIJターン促進事業）（帯広市）	
事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	首都圏での移住相談会の開催や、UIJ ターン希望者への地元企業見学ツアーの実施のほか、UIJ ターン希望者に対する転居費用の補助等により、移住促進を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】18人 【最新値】0人</p> <p>令和5年度の本事業による帯広市への移住者の数は、移住を具体的に検討している移住希望者を対象としたマッチングイベントの実施などにより42人であったが、中心市街地エリアにおける居住者はいなかったことから、歩行者通行量増加数は$0 \times 59.4\% \times 2 \times 79\% \div 0$人となり、事業目標値である18人の増加を下回った。</p>
事業の今後について	市が主体となり、首都圏での移住相談会を実施するほか、移住者に対する移住経費の補助等を行うことで、移住の促進を図るとともに、首都圏の大学生向けに地域企業の魅力を発信する取り組みを行っている。そうした取り組みにより、移住者の中心市街地への居住を促進し、歩行者通行量の増加につなげていく。
④. 起業家がつながる拠点運営事業（公益財団法人とかち財団）	
事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	「創業・起業、事業創発を目指す人材や支援者等が集い、交流する施設（とかちのやりたい実現カフェLAND）」を中心市街地で運営することで、情報交換や勉強会等で日常的なにぎわいを創出する事業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】51人 【最新値】15人</p> <p>令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴う域内外の人流増加により、前年度比で仕事や相談、イベントでの利用者が増加したが、歩行者通行量増加数は$13.2 \text{人/日} \times 2 \text{地点} \times 57\% = \text{約} 15 \text{人}$と推定され、事業目標値である51人の増加を下回った。</p>
事業の今後について	今後も、民間事業者等が集い、交流する場として、事業の相談対応や情報提供などを行うほか、イベントの実施等の新しいチャレンジやアイデアが生まれる機会を創出していくことで更なる効果の発現を目指す。

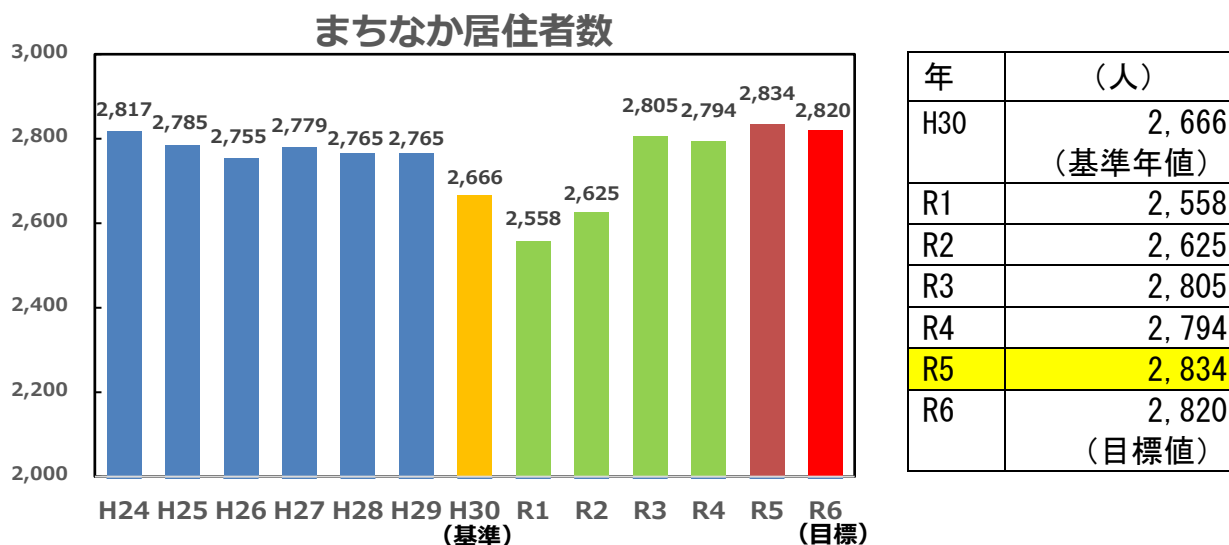
●目標達成の見通し及び今後の対策

令和5年度における平日昼間の歩行者通行量は目標値を下回る結果となったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け大幅に減少したもから回復の傾向が見られた。

主要事業の1つである「西3・10東地区優良建築物等整備事業」の計画期間内における事業着手が困難となったが、その他の主要事業を着実に推進し事業者や市街在住者にとっても魅力のあるエリアを形成していくことにより、目標達成を目指してまいりたい。

(2)「まちなか居住者数」※目標設定の考え方は基本計画 P63、P71～72 参照

●調査結果と分析



※調査方法：9月末の住民基本台帳より集計（※H24～H29は3月末）

※調査月：9月

※調査主体：帯広市

※調査対象：中心市街地区域

〈分析内容〉

令和3年度に事業が完了した「西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業」により建設された19階建て分譲マンションが完売し入居が進んでいるほか、JR帯広駅前にできたサ高住への入居が進んだことにより目標値を上回ったと考える。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業（アルファコート帯広西3・9地区開発株式会社）

事業実施期間	平成29年度～令和3年度【済】
事業概要	大型商業施設が郊外に移転して以降空きビル状態が続き、中心市街地衰退の大きな要因の一つであった西3・9周辺地区を再整備し、事務所棟、19階建て分譲マンション棟、店舗棟などの建設により、都市機能の更新を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成29年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】281人 【最新値】181人 本事業における居住施設の整備により281人の居住者の増加を見込んでいる。本事業は当初の計画どおり進捗し、令和2年4月に事務所棟・駐車場棟が完成、令和2年10月に分譲マンション棟が完成し、令和4年2月までに商業棟や自走式駐車場棟など全ての工事が完了した。令和6年3月末における分譲マンションの成約割合は100%（令和6年3月末入居実績181人）である。
事業の今後について	商業棟については令和5年度中に全てのスペースが契約済みとなったが、未入居のテナントが一部ある状況。今後新たなテナントが開業することにより、さらなる集客、にぎわいの創出が期待できる。

②. 西3・10東地区優良建築物等整備事業（有限会社ホテル十勝屋）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	JR帯広駅からほど近く、オフィスビル・ホテル・映画館などの娯楽施設が集中する地区で宿泊施設・商業施設・居住施設等からなる複合施設を整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】21人 【最新値】0人 本事業における居住施設の整備により21人の居住者の増加を見込んでいた。本事業による歩行者通行量は、居住施設の整備により20人、商業施設整備により155人、ホテルの整備により217人、計392人の増加を見込んでいた。事業実施期間は令和3年度～令和5年度の予定であったが、新型コロナウイルス感染症や原材料費の高騰等の影響により、事業着手に至っていないもの。
事業の今後について	計画期間内での事業着手には至らない見通しであるが、当該地の利活用については事業者に対して確認を継続していくもの。

③. 移住促進事業（UIJターン促進事業）（帯広市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	首都圏での移住相談会の開催や、UIJ ターン希望者への地元企業見学ツアーの実施のほか、UIJ ターン希望者に対する転居費用の補助等により、移住促進を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】19人 【最新値】0人</p> <p>令和5年度の本事業による帯広市への移住者の数は、移住を具体的に検討している移住希望者を対象としたマッチングイベントの実施などにより42人であったが、中心市街地エリアにおける居住者はいなかったことから、事業目標値である19人の増加を下回った。</p>
事業の今後について	市が主体となり、首都圏での移住相談会を実施するほか、移住者に対する移住経費の補助等を行うことで、移住の促進を図るとともに、首都圏の大学生向けに地域企業の魅力を発信する取り組みを行っている。そうした取り組みにより、移住者の中心市街地への居住を促進していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

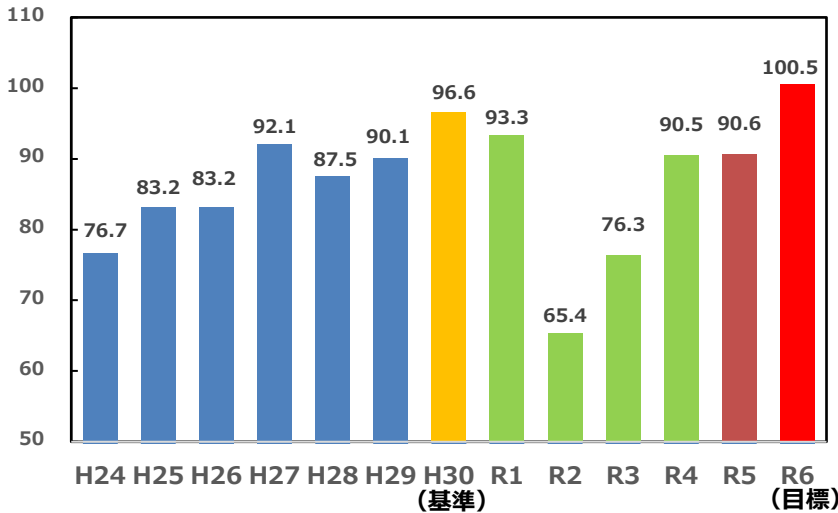
主要事業の1つである「西3・10東地区優良建築物等整備事業」は計画期間内における事業着手が困難となったものの、令和5年度時点では目標値を上回っている状況である。

今後もその他の主要事業や関連事業を着実に推進することにより、良好な居住環境を維持し計画終了時における目標達成を目指したい。

【参考指標】「中心市街地の宿泊客延べ数」※目標設定の考え方は基本計画 P63、P73～74 参照

●調査結果と分析

中心市街地の宿泊客延べ数



年	(万人泊)
H30	96.6 (基準年値)
R1	93.3
R2	65.4
R3	73.3
R4	90.5
R5	90.6
R6	100.5 (目標値)

※調査方法：北海道観光入込客数調査要領に基づき、帯広市が集計して算出

※調査月：当年度分を翌年4月～5月に集計

※調査主体：帯広市

※調査対象：中心市街地区域内に所在する宿泊施設の宿泊者

〈分析内容〉

令和5年度は、目標値を下回る結果となったものの、「中心市街地の宿泊客延べ数」については、目標値を下回る結果となったものの、商店街のおまつりなどのイベントが従来どおりに近いカタチで実施できたほか、4年に1度の国際農業機械展開催や、夏季の帯広名古屋季節便利用が好調であったことから、前年度比微増の宿泊者数であった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西3・10東地区優良建築物等整備事業（有限会社ホテル十勝屋）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	JR帯広駅からほど近く、オフィスビル・ホテル・映画館などの娯楽施設が集中する地区で宿泊施設・商業施設・居住施設等からなる複合施設を整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業)(国土交通省)(令和3年度～令和5年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】3.9万人 【最新値】0人 本事業による宿泊施設の整備により宿泊客3.9万人泊の増加を見込んでいた。事業実施期間は令和3年度～令和5年度の予定であったが、新型コロナウイルス感染症や原材料費の高騰等の影響により、事業着手に至っていないもの。
事業の今後について	計画期間内での事業着手には至らない見通しであるが、当該地の利活用については事業者に対して確認を継続していくもの。

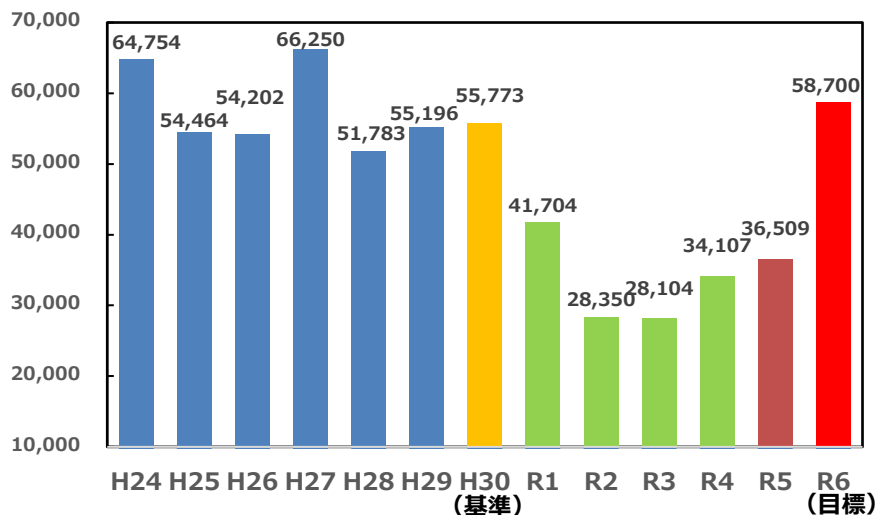
●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルス感染症の影響により宿泊客数が減少していたが、同感染症の5類引き下げを契機に人流は徐々に回復してきており、今後更なるインバウンドの増加なども期待されることから、目標達成が見込まれる。

【参考指標】「歩行者通行量（平日+休日）」※目標設定の考え方は基本計画 P63、P75～77 参照

●調査結果と分析

歩行者通行量（平日+休日）



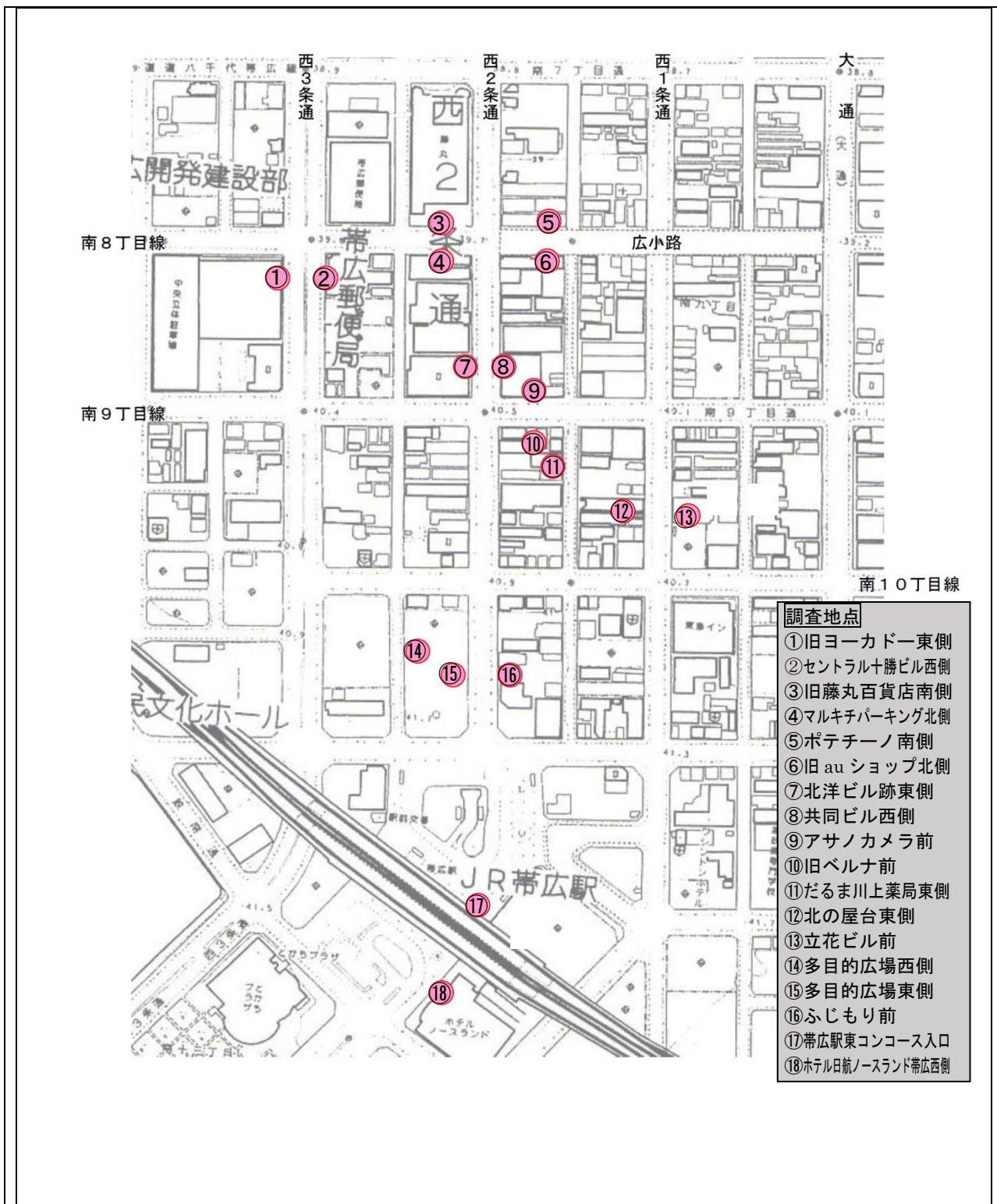
年	(人)
H30	55,773 (基準年値)
R1	51,704
R2	28,350
R3	28,104
R4	34,107
R5	36,509
R6	58,700 (目標値)

※調査方法：午前9時～午後8時までの歩行者通行量を測定

※調査月：各年6月最終週又は7月の第1週金曜日及び日曜日（休日に前年と同じイベントが行われる週に合わせて決定）

※調査主体：帯広商工会議所

※調査対象：中心市街地区域内計18か所における「中学生以上の歩行者」



(単位：人)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
①旧ヨーカドー東側	832	482	540	815	1,354	
②セントラル十勝ビル西側	992	684	807	836	994	

③旧藤丸百貨店南側	3,773	2,086	1,875	2,075	675	
④マルキチパーキング北側	1,458	898	800	711	737	
⑤ポテチーノ南側	2,143	746	803	1,041	1,381	
⑥旧 au ショップ北側	1,810	716	632	1,003	1,623	
⑦北洋ビル跡東側	4,670	2,434	2,374	2,022	1,555	
⑧共同ビル西側	3,920	1,476	1,273	2,251	2,428	
⑨アサノカメラ前	1,877	1,088	939	1,192	1,195	
⑩旧ベルナ前	1,441	1,096	969	1,295	1,361	
⑪だるま川上薬局東側	2,533	1,538	1,436	2,103	2,389	
⑫北の屋台東側	2,041	1,626	1,356	1,823	1,650	
⑬立花ビル前	2,087	1,540	1,312	1,239	1,199	
⑭多目的広場西側	2,106	984	1,098	1,326	1,243	
⑮多目的広場東側	2,687	1,230	1,616	1,677	1,381	
⑯ふじもり前	4,265	2,332	2,774	3,364	3,142	
⑰帯広駅東コンコース入口	9,450	5,262	5,498	6,500	9,054	
⑱ホテル日航ノースランド帯広西側	3,619	2,132	2,002	2,834	3,148	
合計	51,704	28,350	28,104	34,107	36,509	

〈分析内容〉

令和5年度については基準値を下回ったものの、中心市街地におけるイベントが新型コロナウイルス感染症以前の規模に戻つつあること、市外からのビジネス、観光目的での来街者が増えていると考えられることから、前年比2,402人の増となっている。前年比で減少している地点のうち、令和5年1月末で閉店した旧藤丸百貨店南側の減少幅が特に大きいもの。一方、広小路商店街内や JR 帯広駅周辺等は前年度比で大きく増加している。従来の規模で開催された帯広まちなか歩行者天国により、広小路商店街内は集客が高まったと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業（アルファコート帯広西3・9地区開発株式会社）

事業実施期間	平成29年度～令和3年度【済】
事業概要	大型商業施設が郊外に移転して以降空きビル状態が続き、中心市街地衰退の大きな要因の一つであった西3・9周辺地区を再整備し、事務所棟、19階建て分譲マンション棟、店舗棟などの建設により、都市機能の更新を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成29年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】1,924人 【最新値】1,686人</p> <p>本事業による居住施設の整備により歩行者通行量668人、商業施設整備により1,256人、計1,924人の増加を見込んでいる。本事業は当初の計画どおり進捗し、令和2年4月に事務所棟・駐車場棟が完成、令和2年10月に分譲マンション棟が完成した。令和4年2月までに商業棟や自走式駐車場棟などの全ての工事が完了しことから、商業施設整備による歩行者量の増加として、計画策定時の試算通り、$2,080 \text{人} \times 15.1\% \times 2 \times 2 = 1,256 \text{人}$を見込んでいる。令和6年3月末における分譲マンションの成約割合は100%（令和6年3月末入居実績181人）であり、歩行者通行量としては$181 \text{人} \times 59.4\% \times 2 \times 2 = 215 \text{人} \times 2 \text{（平日+休日）} = 430 \text{人}$の増加が推定される。</p>
事業の今後について	商業棟については令和5年度中に全てのスペースが契約済みとなったが、未入居のテナントが一部ある状況。今後新たなテナントが開業することにより、さらなる集客、にぎわいの創出が期待できる。

②. 西3・10東地区優良建築物等整備事業（有限会社ホテル十勝屋）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	JR帯広駅からほど近く、オフィスビル・ホテル・映画館などの娯楽施設が集中する地区で宿泊施設・商業施設・居住施設等からなる複合施設を整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】655人 【最新値】0人</p> <p>本事業による居住施設の整備により歩行者通行量25人、商業施設整備により196人、ホテルの整備により434人、計655人の増加を見込んでいた。事業実施期間は令和3年度～令和5年度の予定であったが、新型コロナウイルス感染症や原材料費の高騰等の影響によ</p>

	り、事業着手に至っていないもの。
事業の今後について	計画期間内での事業着手には至らない見通しであるが、当該地の利活用については事業者に対して確認を継続していくもの。

③. 移住促進事業（UIJターン促進事業）（帯広市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	首都圏での移住相談会の開催や、UIJ ターン希望者への地元企業見学ツアーの実施のほか、UIJ ターン希望者に対する転居費用の補助等により、移住促進を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】23人 【最新値】0人 令和5年度の本事業による帯広市への移住者の数は、移住を具体的に検討している移住希望者を対象としたマッチングイベントの実施などにより42人であったが、中心市街地エリアにおける居住者はいなかったことから、歩行者通行量増加数は $0 \times 59.4\% \times 2 \div 0$ 人となり、事業目標値である23人の増加を下回った。
事業の今後について	市が主体となり、首都圏での移住相談会を実施するほか、移住者に対する移住経費の補助等を行うことで、移住の促進を図るとともに、首都圏の大学生向けに地域企業の魅力を発信する取り組みを行っている。そうした取り組みにより、移住者の中心市街地への居住を促進し、歩行者通行量の増加につなげていく。

④. 起業家がつながる拠点運営事業（公益財団法人とかち財団）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	「創業・起業、事業創発を目指す人材や支援者等が集い、交流する施設（とかちのやりたい実現カフェLAND）」を中心市街地で運営することで、情報交換や勉強会等で日常的なにぎわいを創出する事業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】90人 【最新値】26人 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴う域内外の人流増加により、前年度比で仕事や相談、イベントでの利用者が増加したが、歩行者通行量増加数は $13.2 \text{人/日} \times 2 \text{地点} = \text{約} 26$ 人と推定され、事業目標値である90人の増加を下回った。
事業の今後について	今後も、民間事業者等が集い、交流する場として、事業の相談対応や情報提供などを行うほか、イベントの実施等の新しいチャレンジやアイデアが生まれる機会を創出していくことで更なる効果の発現を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和5年度における休日の歩行者通行量は目標値を下回る結果となったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け大幅に減少したことから回復の傾向が見られた。

主要事業の1つである「西3・10東地区優良建築物等整備事」の計画期間内における事業着手が困難となったが、その他の主要事業を着実に推進し事業者や市街在住者にとっても魅力のあるエリアを形成していくことにより、目標達成を目指してまいりたい。